

# 一庫親善交流少年軟式野球大会規定

## 1. ルール

- (1) 大会ルールは、全日本軟式少年野球ルールに準じて行う。  
但し、使用球場に応じてグラウンドルールを定める。
- (2) 規定回数、試合時間、同点の場合、コールドゲームは各級ごとに次のように定める。

		A 級	B 級	C 級	D 級
準 決 勝 ま で	規 定 回 数	7回戦 80分	7回戦 70分	5回戦 70分	5回戦 60分
	制 限 時 間	◆ 上記時間を過ぎて、新しいイニングに入らない			
	同 点 の 場 合 (注1)	抽 選	抽 選	抽 選	抽 選
	コ ー ル ド	5回 7点差	5回 7点差	3回 7点差	3回 7点差
	降 雨 の 場 合 試 合 成 立	5回 終 了	5回 終 了	3回 終 了	3回 終 了
	ポ ー ク 適 用	1回目より	1回目より	指 導	指 導
決 勝 戦	規 定 回 数	7回戦 80分	7回戦 70分	5回戦 70分	5回戦 60分
	制 限 時 間	◆ 上記時間を過ぎて、新しいイニングに入らない			
	同 点 の 場 合 (注2)	PO戦採用 (2回)	PO戦採用 (1回)	PO戦採用 (1回)	PO戦採用 (1回)
	・ 未 決 着 の 場 合	抽 選	抽 選	抽 選	抽 選
	コ ー ル ド	5回 7点差	5回 7点差	3回 7点差	3回 7点差
	降 雨 の 場 合 試 合 成 立	5回 終 了	5回 終 了	3回 終 了	3回 終 了
ポ ー ク 適 用	1回目より	1回目より	指 導	指 導	

- (注：1) 抽選は、最終回の出場選手各チーム9名ずつにより行う。
- (注：2) 特別延長戦一（PO戦）無死満塁の状態、継続打順とする。前回の最終打者は一塁走者とし、二塁、三塁の走者は順次前の打者とする。選手交代は認める。

- (3) 塁間距離は、各級次のように定める。

項 目	A 級	B 級	C 級	D 級
投手 ～ 本塁間	1 6 M	1 6 M	1 5 M	1 4 M
	2 3 M	2 3 M	2 2 M	2 1 M

- (4) メンバー登録

同一級での重複登録は認めない。  
複数級での重複登録は2階級までとする。  
上の学年から降ろしての登録は原則として認めません。  
但し、当日ケガ・急用により補充が必要な場合のみ、上から降りることは可能とします。  
(この場合は、担当級主管チームの判断に委ね、対戦チームの了承を得るものとする)

## 2. 大会期間

- (1) 期間：本大会は、概ね2ヶ月を目標に開催する。
- (2) 開催日：①日曜日 ②祝日・国民の休日 ③土曜日

## 3. 不敗戦の適用

- (1) 上記、開催日に対し、学校行事を除き自チームの都合による試合不参加の場合は、1回目は認めるが、2回目からは不戦敗として取り扱う。  
〔学校行事の範囲〕 ①運動会・体育祭（地区体育祭も含む） ②授業（父兄）参観
- (2) 本部の、各級責任者に事前連絡がなく、試合開始時間を過ぎても到着しない場合。

## 4. 試合開始時間

- (1) 試合の進行上、試合開始時間が早くなる場合を考慮して試合場には、試合開始時間の30分前に到着すること。  
但し、早める場合でも試合予定時間の30分内の場合とする。

## 5. 審判

- (1) 準決勝戦までは相互審とし、人数（3人制・4人制）は双方協議の上決定とする。
- (2) 決勝戦は主管での対応とし、4人制で行うものとする。
- (3) 主管チームの決勝進出や、チームの事情等で審判が出来ない場合  
本部に試合開始前日までに審判の要請を行うこと。
- (4) 判定に著しい疑義が生じた場合、球審が各審判と協議再判定の措置を行う。

## 6. ベンチ

- (1) 試合の、組合わせ番号の若い方を1塁側とする。
- (2) ベンチには、代表者・監督・コーチ・スコアラーの5名以内と、登録選手以外の立ち入りを禁ずる。
- (3) 代理監督が指揮を取る場合は、試合前に球審に連絡し球審が相手チーム監督の了解を取ること。
- (4) ベンチ内では、喫煙、飲食及びサングラスの使用を禁止する。（必要時は、試合開始までに了解を得ること）
- (5) ファールボールは、飛んだ側のベンチが取りに行く。バックネット裏は攻撃側とする。

## 7. メンバー表

- (1) 試合開始時間の、15分前には登録メンバー全員をメンバー表に記入し、本部に3部提出のこと。
- (2) 球審立会いで、攻守を主将によるジャンケンで決定する。

## 8. 使用用具

- (1) 試合球は、全日本軟式野球連盟公認ボールJ号とする。
- (2) 試合球は、試合ごとに対戦チームがそれぞれ2個ずつ用意する。
- (3) 打者、次打者、走者、ランナースコーチはヘルメットを着用する。
- (4) バットは、全日本軟式野球連盟の公認したものを使用する。
- (5) 捕手は、公認のマスク、プロテクター、ヘルメット、レガースを着用する。
- (6) バッティンググローブの使用は許可する。

## 9. 試合のスピードアップ

- (1) 選手の攻守交代は、全力疾走で行う。
- (2) 打者は、必要以外に打席を外さないこと。又、指導者はバッターにサインを送る場合等は、打者が迅速に判断出来るよう努めること。
- (3) 打席後のバットは、速やかに片付けること。
- (4) 投手の準備投球は、1回目と投手交代は7球。その他は、3球とする。
- (5) 準備投球の際、捕手がプロテクター着用準備中の時は、速やかに控え選手に受けさせること。
- (6) 異議申し入れは、監督または当該選手が行いその時間は、1分以内とする。
- (7) ボールデット時は走者は帰塁し、一旦リタッチすれば離塁が出来る。塁審はその確認を行う。
- (8) 攻守交代時以外の、ボール回しは禁止する。
- (9) 監督の作戦タイムは、2回まで認める。その時間は1分以内とする。
- (10) 試合中の、ケガ治療時間等のロスタイムについては、審判団が判断し監督に通告する。  
なお、ロスタイムを明確にした後、試合を再開する。

## 10. 要注意プレーの徹底

- (1) ホームスチールは、A級のみ認める。B級～D級については禁止する。
- (2) ラフプレー、空タッチ、隠し球は、禁止する。
- (3) 自チームの反対側の、バッターボックスに入る時は、ホームベースをまたがらずに、必ず球審の後ろ側を通ること。
- (4) コリジョンルールを適用する。

## 11. 審判講習会

- (1) 年度内に、最低限1回の審判講習会を開催することを前提に取組む。
- (2) 内容（座学、実技他）については、各チームの審判員による情報交換等で決めるものとする。

## 12. 応援マナーについて

- (1) 指導者、選手及び応援団は、相手選手や審判員をやじったり、誹謗してはならない。
- (2) 本部及び審判団が、応援の状況が悪いと判断した場合、該当チームに対し、1回目は警告を行う。  
再度注意を与えても改善されない時は退場、及び状況によっては没収試合とする場合もある。

## 13. 応急措置

- (1) 試合中、負傷などの事故が発生した場合、本部は応急処置を行う。
- (2) その後の処置は、各団で行うものとし、本部に問わないものとする。

## 14. その他

- (1) 本規定は、1999年9月18日（土）に開催した「一庫親善交流少年軟式野球大会指導委員会」並びに、監督会議において、審議を行い本大会の統一規定として決定されたものである。
- (2) 本規定は、1999年10月に開催の第34回大会から適用する。
- (3) 本規定の改廃については、「一庫親善交流指導委員会」に提案し、承認後実施する。

以 上